

Q&A：動作検知技術がどのように小売店の売り上げを向上させるのか

ティム・サンドル

2019年4月7日

サンフランシスコに拠点を置く Motionloft は、最適な場所にセンサーを設置し、組織・団体・企業や都市による、人や車の交通量の測定、経路追跡、来店客の滞在時間の測定などを可能にしました。



コロラド州ウエストミンスターの J.C. Penney の店内の客
(ロイター/リック・ウィルキング氏による写真利用の許諾済み)

[Motionloft の ViMo センサー](#)は、屋内外でともに利用可能で、正確かつリアルタイムで測定できる最先端の機器です。利用事例としていくつかご紹介いたします。例えば、ViMo センサーは交通量を分析して、市街の混雑緩和を支援します。また、都市計画を立案されているお客様には、車・人のデータから交通の流れを検知し、そのデータをご提供する事ができます。さらに、小売店では経路追跡を使って販売キャンペーンの効果を見極めることができます。

詳しくは、Digital Journal が Motionloft の CEO [ジョイス・ライトマン](#) と、匿名の動作検知データについて対談しています。

Digital Journal：ビジネスにとってデジタル化はどの程度の重要性があるのでしょうか。

ジョイス・ライトマン： デジタル技術は今日の世界でビジネスの形態に革命をもたらしています。インターナショナル・データ・コーポレーション

(IDC)によると、世界におけるデジタル化 (DX) の投資は2022年には2兆ドル近くになるということです。これはデジタル技術がビジネスの形態を変革する速度と勢いを示しています。企業がビジネスの成長のためにいかにDXに依存しているかを示しているのです。Motionloftでは、リアルタイムで歩行者と車の交通データの分析結果を提供し、お客様が自信を持って意思決定するにあたり、当社の分析したデータが多大な貢献をしている実態を目にしております。また、さらに当社の分析したデータのみが発見できる新たな示唆もありました。

DJ： 特にビッグデータの価値とはどんなものでしょうか。

ライトマン： データは有効な資産です。また、ビッグデータとは、例えば、さらなる高みを目指し学習する際、利用できるデータの泉のようなものです。データの使い方によってはユーザーの強力な武器となります。ビジネスにおいては、お客様

についての情報はできるだけ集めたいものです。お客様について知れば知るほど、ビジネスに貢献する施策、カスタマーエクスペリエンスへ貢献する施策を検討することができます。データは、サービスのスピード、ファイナンシャル・モデリング、そしてマーケティングにおける戦略的施策を含めたあらゆるタイプのビジネス・モデリングに利用できます。ビッグデータは人事、ロジスティック、スペースの最適利用計画立案などの業務効率の改善施策にも寄与します。ビッグデータの利用は、将来起こるべき事柄について予測し、対応する為の意思決定を支援します。さらに意思決定に関する詳細な分析結果を迅速に提供します。

DJ： 小売企業がロケーション・テクノロジーから得られるものは何ですか。

ライトマン： 小売店が、お客様の動きや興味についての特定のパターンを見出し、理解を深めなければ、とカスタマーエクスペリエンスを改善することも売上を向上させることも難しくなります。お客様が店内をどのように動いているか、どこで立ち止まるか、どのくらいそこに立ち止まっているか、何人入れ替わったか。Motionloftは、豊富なデータにより小売店の意思決定に貢献することができます。お客様の購買傾向が明らかにされ、小売店の立地選択や販売施策に好結果をもたらし、売上も上がります。

DJ：Motionloft テクノロジーの元となったアイデアは何ですか。

ライトマン：Motionloft は、人と車の物理的な動きを捉えてデジタルデータに変換します。このデータは、お客様の IT システムにデータ提供でき、お客様の業務プロセスの中に組み込まれるか、Motionloft から入手できる解析プラットフォームを通してそのまま利用できます。要は、当社はリアルタイムで最新の分類・区分を持った、高度に正確な活動データを企業に提供して、カスタマーエクスペリエンスに対する新たな示唆を加えることによって、その企業が持つ新たな可能性を理解できるようお手伝いします。

DJ：そのデータで、小売店が特にできることは何ですか。

ライトマン：例えばこんな例があります。ニューヨーク大学の書店が当社に来た折、その書店はマニュアルで集計のデータを集めていました。このような人手を介する作業の結果は稀ですが、ニューヨーク大学はデータの分析は難しく、ましてや人事や在庫調べ、販売効果についての精査・意思決定などは困難であったのは言うまでもありません。当社は即 ViMo センサーを設置し、書店は（屋内外の）交通の傾向、広告キャンペーンの効果、そしてレジの列に適切に人員が配置されているかについての詳細な情報を集めることができるようになりました。結果として、この書店は各部署のマネージャーが売上をモニタリングする正確なバロメーターを手に入れました。Motionloft のデータがもたらす結果は、最適な営業時間と店員の全般的なレジ出納のトレーニングの効果を決定するためにも使われています。

DJ：不動産はどうですか、この分野でのこのテクノロジーの活用法は？

ライトマン：Motionloft は商業不動産の取引の見える化に寄与します。前述したように、当社は、不動産投資家やオーナー、デベロッパー、マネージャーが、人と車の交通量、滞在時間、ピーク時並びに経路追跡についてのデータを備えた信頼できる屋内外のソリューションを提供します。小売店同様、これらのデータは、立地の選択についての情報を提供し、オーナーやデベロッパーが最適なテナントを誘致するのに役立ちます。当社はこれらの重要な決定から推定を省きます。当社のお客様、Kyo-ya Hotels and Resorts がシェラトン・ワイキキ・ホテルのリーススペースに一流小売テナントを必要としていた時、Motionloft センサーを主要商店街であるカラカウア・アベニューに配置しまし

た。当社のセンサーで歩行者の交通量を測定して、Kyo-ya は空いている小売店スペースに関する有効なマーケティングとリースのデータを集めることができ、最適なテナントを誘致することができました。

DJ: このテクノロジーはどのように開発されたのですか。

ライトマン: Motionloft テクノロジーは、コンピュータビジョン・ソフトウェアとセンサーを利用して開発されました。これは、ダッシュボード上にまたは API を通して送られるレポートと分析を備えたエンド・ツー・エンドの、ソフトウェア並びにハードウェアのソリューションです。ViMo センサーは「エッジ」コンピューティング、つまりメタデータのみが移送され、個人的な検知可能な情報は一切保存されたり転送されたりしません。センサーは屋内外で作動し、耐候性を持っています。機械学習ソフトウェアは、センサーが見るものから開発される独自の分類ライブラリを使用します。進行中の開発は、AI ソフトウェアを備えた機能の改良や追加で、Motionloft のソリューションを通じて提供されます。

DJ: 安全上の懸念は何かありますか。

ライトマン: プライバシーが、デジタル時代に生きる人たちの大きな懸念となりつつある中、Motionloft は安全性に重点を置いた独自のセンサーとコアテクノロジーを設計しました。当社の ViMo センサーは認証可能な個人情報をファイルに保存したり作成したりしません。データは装置本体（エッジ）上で処理されます。つまり画像は一切保存されたり転送されたりしません。メタデータ（X と O）のみがお客様に提供されます。さらに、当社はデータプライバシーの基準についての ISO（国際標準化機構）の公式ガイドラインに従っています。